



市民図書館所蔵 おすすめの新作

あふれたまち

マリアホ・イラストラホ：作 鈴木 沙織：訳 化学同人

いつもと同じ朝のはずなのに、今朝は少し違って見えます。それは町がちよっぴり水浸しなこと。だいじょうぶ、だいじょうぶ…と言っているうちにだんだん水かさが増えてきて…。シンプルな色使いが、町の様子や動物たちの表情を際立たせます。



浮世絵でみる！動物図鑑

中右 瑛：監修  
パイインターナショナル

庶民の生活を描き江戸時代に成立、発達した浮世絵。その作品をよく見ると実在、架空にかかわらず、多くの動物たちが描かれています。そんな江戸の人たちの動物好きがよく分かる作品160点以上が記載された図鑑です。英文併記。



市民図書館からのお知らせ

新春の初読み 「本の福袋」を貸し出します 無料

図書館員がテーマ別に選んだ3冊の本を、中身が見えない福袋に入れて貸し出します。

期 間：1月5日(金)～ なくなり次第終了  
場 所：市民図書館、コンパルホール分館  
数 量：両館合わせて200袋



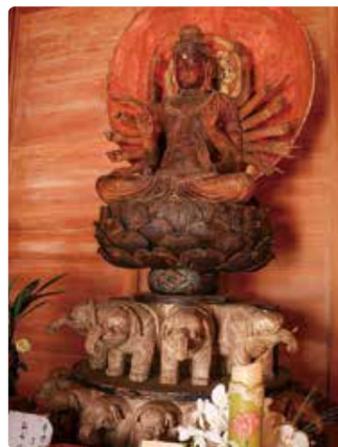
※イラストはイメージです

詳しくは、ホームページをご覧ください。市民図書館(☎576-8241)へ。

#オオイタレキシ旅

大分市内にあるとっておきの文化財の魅力をお届けします！

— 第9弾 —  
大山寺  
(木造普賢延命菩薩坐像)



●●●  
# 国指定重要文化財  
木造普賢延命菩薩坐像



●●●  
# 息災延命を祈る優しいまなざし



●●●  
# 支えるのは白象たち

Point

全国的にも珍しい「木造普賢延命菩薩坐像」。拝観するには前もって予約が必要です。(大山寺 ☎536-1914)

Access

所在地：大字八幡1382番地  
移動時間：[車]JR大分駅から約15分  
[バス]JR大分駅前⑦のりば発 大分交通「柞原」行き。  
「天神前」で下車、徒歩約5分  
駐 車 場：あり 無料

☎ 文化財課 ☎578-7546

編集担当より

今号の表紙は、大分高等学校書道部の皆さん😊  
新年の抱負を書きあらわしていただきました！

大分高等学校書道部は、部員26人と顧問の先生4人の計30人で活動中。5年に開催された「第28回全日本高校・大学生書道展」では、2年連続で高等学校の部 最優秀校(団体1位)に選ばれています 🌟🌟

表紙の言葉「夢」には、書道部としての夢、新たな進路へ進む3年生の夢、生徒一人ひとりの夢、多くの意味が込められています。「何歳になっても夢を持ち続けてほしい、そしてその夢を叶える努力を続けてほしい」と顧問の先生😊

新たな1年、夢を持ち、実りのあるものにしていきましょう😊

本年も「市報おいた」をどうぞよろしくお願ひします😊



大分高等学校書道部の皆さん

Q 市報クイズ

○に入る言葉は何か？

消防職員・消防団員が一堂に集結し  
決起する消防の仕事始めを  
何というでしょう？

消防○○式

ヒントは、この市報の中にあります。

正解者の中から抽選で、おめでたい！新春セット(関たいを使った加工品セット)を3人にプレゼント！  
※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

応募方法  
スマホ 右の二次元コードから応募してください。  
はがき はがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、1月15日(月)〈消印有効〉までに広聴広報課(〒870-8504 荷揚町2-31 ☎537-5713)へ。



12月1日号 「市報クイズ」の答え  
2023TNZ 選抜総選挙に初エントリーする、高崎山自然動物園の子ザルキャラクターの名前は？？  
「な な ま る」

人権・同和教育シリーズ 541

人の生き方を考える



決めつけることが・・・

先日、幼稚園からの帰りに子どもと公園で遊んでいると学生時代の友人親子とばったり会いました。「久しぶり。元気だった？」と声を掛け、友人の子どもにも「こんにちは。お名前は何？」と話し掛けると返事がありません。キョトンとしていたわたしに、友人は「うちの子は、耳が聞こえにくいんだよ」と言うのです。わが子が「何で耳が聞こえないの？」と尋ねたので「そんなこと言わない」と慌てて止めました。

その後、子どもたちはすぐに打ち解け遊び始めました。わが子はジェスチャーを交えゆつくりと大きな声で話しています。わたしは「何で耳が聞こえないの？」としつこく聞いたりと不安でした。突然、わが子が「あつちにはたくさん人がいるよ。向こうの遊具で遊ぼう」と言ったのです。わたしは、慌てて「危ないでしょ。やめなさい」と止めようとした瞬間、友人は

「行っておいで。気をつけてね」と笑顔で言うのです。友人に「いいの？危なくない？」と聞くと「大丈夫。いつも遊ぶんですよ」と答えたのです。遊具で遊ぶ二人は、楽しそうに笑っています。その姿を見ていると、わたし自身も友人の子どもに対して「危ないからできない」と勝手に決めつけ、もつと仲良くなる機会を奪おうとしていたことに気づいたのです。帰り際、わたしは同じ目線に立ちジェスチャーを交えて「また遊んでね」と伝えました。

家に帰って、夫に「子どもってすごい。相手のことを決めつけず、さりげなく寄り添うことができる。子どもに思い込みや偏見を植えつけるのは、わたし自身もつて思った」と伝えました。夫は、うなずきながら「大人の決めつけが、知らず知らずのうちに子どもに伝わってしまうことは意識しないと。もちろん相手のことを思って配慮することも大事にしていきたいけど」と…。大切なことは何かを考える機会となりました。

無意識のうちに物事を決めつけてしまうことがあります。まずは、自分の「当たり前」に気づき、見つめ直していくことが大切なのではないでしょうか。